

令和6年度 学校自己評価システムシート (県立桶川高等学校)

目指す学校像	地域の期待に応える学校
--------	-------------

重点目標	1 教育課程と授業の工夫の充実と、高い志を持ち、地域の将来を担う人づくり。 2 生徒中心の学校行事・部活動の推進と、自信や自己肯定感を育む生徒支援。 3 学校・家庭・地域の連携の具体的な深化と、情報収集・発信力の高い学校づくり。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者	6名
生徒	3名
事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (1月10日現在)			実 施 日 令 和 7 年 1 月 2 9 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状・課題】 学校評価アンケート項目において、「学校は魅力ある授業を行っていると思う」割合が生徒・保護者ともに昨年度より向上したが、引き続き「魅力ある授業づくり」に向け、改善・工夫を進め、生徒の学習意欲を向上させるとともに高い志を持たせる取り組みが必要である。</p>	授業力向上のための更なる実践及び進路指導体制の確立	①年間を通じた教員相互の授業見学、研究授業および校内・校外研修会への積極的な参加 ②生徒の主体的、対話的で深い学びの実践に向けた授業力の向上およびアクティブラーニング、ICT (HRプロジェクトやClassroom、MetaMoji、BYOD等)の活用 ③教育課程のさらなる充実に向けた研究、改善 ④大学入試制度に係る情報共有・活用 ⑤生徒の進路実現に向けた支援(通年補習・夏季補習等)を通して、高い志を持たせる。	①②③主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践と教材開発 ①②③評価アンケート(魅力ある授業)の肯定的な評価割合が7割以上 ④⑤模試等分析結果の活用(授業改善、学力向上) ④⑤進学補習、面接・小論文指導、スタディサポート、探究活動、面談等の充実	①校内において、年間を通じた教員相互の授業見学は好評であったものの、さらに多く実施できる工夫が必要である。 ②効果的にICT(HRプロジェクト、Classroom、MetaMoji、BYOD等)を活用し、視覚的にも理解しやすい授業を実践している。また授業アンケートを実施し、授業改善に活かした。 ③魅力的な授業を行っていると答えた生徒60.5%(前年60.5%)、保護者68.0%(前年67.2%)と向上した。 ④生徒の実態に合わせ数学B、数学Cの履修を工夫し改善した。 ④外部機関と連携した進路校種別が「ダンス(1年)、分野別進路が「ダンス(2年)」を実施した。 ⑤1月10日現在、進路決定者は253名(大学126名、短大14名、専門95名、就職:公務員9名民間9名)。今後、一般受験者32名名いるが進路決定者は9割を超えと思われる。 ⑤通年補習(9講座)、夏季補習(10講座)、面接・小論文指導(3年)を実施し、生徒の進路意識の向上および希望進路実現を支援した。	B	・評価アンケート「魅力的な授業」に関しては昨年度と同様、横ばいとなっている。引き続き教員相互の授業見学や効果的なICTの活用等により魅力ある授業づくりが求められる。 ・毎日家庭学習に取り組んでいる生徒は36.1%である。今後、学習習慣を身に付けさせる指導が必要である。 ・一般受験者が32名(前年20名)と増加傾向にある。引き続き「いける大学」ではなく「いきたい大学」に挑戦できる進路指導体制を検討していく。	・魅力ある授業の実践に向け、主体的・対話的で深い学びに向けた工夫・改善に取り組み、ICTも効果的に活用したことで7割近い保護者から評価をいただいていたことは素晴らしいと思います。外部機関との連携や各種補習等による進路指導の充実により、9割以上の進路決定者が見込まれることも、大変良いと思います。 ・ICTを使用する教員、使用しない教員がいるのは生徒が戸惑うので統一してほしい。 ・ICT活用だけでなく、板書も大事。ノートに書いて覚えてほしい。板書がきれいな教員が多い。 ・生徒と教員の距離が近く丁寧に指導してくれる。 ・朝学習はしっかり取り組んでいるが、家庭学習は取り組めていない。オープンキャンパスに1年時から参加させることで進路意識を高めさせ、より目標に向かって家庭学習も取り組めるようになるのではないかと。
2	<p>【現状・課題】 生徒の主体的な学校行事・部活動の推進により学校生活に満足している生徒が多い反面、教育相談へのニーズは年々増加している。また部活動への加入率が減少傾向にある。引き続き、悩みを持つ生徒への丁寧な対応とともに自信や自己肯定感を育む生徒支援が必要である。</p>	学校行事を活性化するとともに部活動を通じて自己肯定感のある生徒を育成する。	①生徒の主体的な学校行事や部活動の支援を通して、生徒の強みや可能性を見出し、達成感と自己肯定感を醸成させる。 ②部活動の更なる活性化のため、部活加入への工夫および魅力ある部活動の推進(外部指導員の導入等)を図る。 ③個人面談や教職員の教育相談研修会を実施して、教育相談体制を確立するとともに教員の知識と理解を深める。 ④スクールカウンセラーによる教育相談を実施し、生徒支援を図る。	①②評価アンケート(楽しく学校に通っている)の肯定的な評価割合が9割以上 ①②評価アンケート(部活動に熱心に取り組んだか)の肯定的な評価割合が7割以上 ③④評価アンケート(安心・安全に生活できる場所)の肯定的な評価割合が8割以上 ③④生徒の状況把握、情報共有、課題解決に向けた取組の実践	①生徒会が中心となって実施した文化祭・体育祭等は、生徒が主体的に取り組む大成功を収めた。 ①桶川高校に入学してよかったと思う生徒は79.8%(前年比+0.4%)、保護者は91.0%(前年比+0.4%)と昨年度より向上している。 ②部活動に熱心に釣組んだと思う生徒は72.4%(前年比+0.5%)、保護者は71.9%(前年比+1.0%)と昨年度より向上している。 ②弓道部、ダンス部、陸上競技部に外部指導員を導入し、部活動の充実を図った。 ③特別支援教育コーディネーターと養護教諭が主体となり教育相談便り「Oke Sou Times」を発行するなど生徒支援をしている。また、外部機関と連携した教職員対象の教育相談研修会(8月)、ミニ研修会(2回)を実施した。 ④スクールカウンセラーを県からの派遣のほか本校独自に配置し2名体制で教育相談を実施している。	A	・評価アンケート「桶川高校に入学してよかった」に関しては昨年度から向上している。引き続き生徒が主体的に取り組めるように支援していく。また、学校行事を見直し学習と行事のメリハリをつけ、生徒の達成感と自己肯定感の醸成を図る。 ・部活動に熱心に取り組んだ生徒の割合は増加している。引き続き外部指導者等を活用しながら魅力ある部活動の推進を図り、部活加入生徒を増やす。 ・教育相談へのニーズは年々増加している。引き続き、悩みを持つ生徒への丁寧な対応と教育相談体制の確立が求められる。	・生徒が主体となった行事や部活動の充実、学校生活の満足感、つまり愛校心や誇りにつながっていると思われます。生徒の8割、保護者の9割が本校に入学して良かったと感じていることは、地域からも応援される学校となっている証だと思います。要配慮の生徒が増加する中、SCや特別支援コーディネーター、養護教諭が中心となって教育相談体制が整備されていることは安心して通える学校につながっていると考えます。 ・学校生活に満足している生徒が8割。その反面、満足していない生徒が2割。この2割の生徒の改善が重要。学校に居場所をつくることや教員から生徒一人一人への声掛けなどを継続してほしい。 ・特色をつくり魅力ある学校にすることで、生徒が充実感・達成感があるとよい。
3	<p>【現状・課題】 ・地域行事における本校生徒の活動要請は多く、今後も「地域の期待に応える学校」として継続していく。 ・9割を超える生徒が近隣地域から進学してくることを踏まえ、近隣地域に向けた広報活動の強化が求められる。</p>	地元の小・中学校との連携事業の実施及び地元中学校からの入学生の増加。地域連携の深化と、情報収集・発信力の高い学校づくり。	①学校説明会を平日と休日に開催し、参加者数を増やし、生徒募集に繋げる。 ②「桶川」地域の親和力を活かし、地元小学校への学習ボランティアや地域行事「桶川市民まつり」等のイベントに参加する。 ③PTA・後援会との連携の下、生徒にとって、より良い学校行事の支援を計画・実施する。 ④ホームページを効果的に活用し、生徒の活動を積極的に掲載し、中学生・保護者等に本校の魅力を発信する。	①学校説明会への参加者の増加(前年度比+10%) ②地元行事への積極的な参加、地元小・中学校との交流 ③保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数の増加 ④ホームページの更新数の増加と内容の充実	①学校説明会を追加説明会を含め6回実施し保護者・中学生428組の参加があった。前年374組より54組増加した。(前年比+15%) ②加納小学校での学習ボランティア(8月)、陸上教室(10月)、吹奏楽演奏(12月)を実施した。 ②桶川市教育委員会ダンス教室(8月)にダンス部、桶川市民芸術文化祭(10月)に書道部・美術部、桶川市民まつり(11月)に吹奏楽部・ダンス部、埼玉駅伝補助役員(2月)に陸上部が参加し、地域との交流を図った。 ③生徒のためPTA・後援会と連携を図り、文化祭・マラソン大会・街頭キャンペーン等各種行事を実施した。また、PTA・後援会活動の実態に合わせた会則への改定を行った。 ③外部機関と連携し、PTA・後援会進路講演会(10月)を実施した。 ④ホームページを更新し(1/8現在143件)、本校生徒の活躍を発信した。また、ホームページが、より見やすく本校の魅力を伝えるためホームページ画面を工夫した。	A	・12月現在の希望倍率0.96倍(前年0.83倍)であった。引き続き中学生・保護者への広報活動を広く続けていき、県の平均倍率を目指す。 ・地域行事における本校生徒の活動要請は高く、今後も地域の期待に応えるべく地域との連携を継続して行っていく。 ・PTA活動については、引き続き生徒のために活動内容を見直し・検討していく。 ・ホームページの役割は本校の魅力を伝えるためには重要である。更新回数を増やし、本校の情報を発信していく。	・市内の小・中学校と密に連携を図り、地元から愛される学校となっているように感じます。学校説明会への参加率が向上するなど、広報活動が充実した結果も見られます。引き続き、地域との連携事業を大切に、広くPRしていただき、魅力ある学校づくりを推進していただけるよう期待しております。 ・学校説明会は、生徒会が主体となって中学生・保護者に説明しているのは学校の雰囲気や伝わりが良いと思う。